

学校教育目標	「共に高め合い、生きる喜びを拓いていく子を育てます」					
	○自ら学び自ら考える子を育てます。(知) ○礼儀や規律を重んじ、他人を思いやる子を育てます。(徳) ○豊かな心と丈夫な体をもつ子を育てます。(体) ○地域や人やものを大切にし、ともに生きる子を育てます。(公) ○いろいろな社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。(開)					
学校概要	創立 41 周年	学校長	遠藤 まり	副校長	斎藤 忠雄	2 学期制
	児童生徒数: 735 人	主な関係校: 上の宮中学校・馬場小学校・菊名小学校				
一般学級: 21		個別支援学級: 4				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	上の宮中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<ul style="list-style-type: none"> 自己有用感 主体性 コミュニケーション力 	上の宮中学校 馬場小学校 獅子ヶ谷小学校 菊名小学校	<ul style="list-style-type: none"> 自分の可能性を信じ、何事にも全力で取り組む子ども 自分の夢を情熱をもって語る子ども 人とかかわりを大切にし、他を思いやる気持ちのある子ども 【5月】授業研究会①(上の宮中授業参観)／課題研究会① 【8月】小中ブロック合同研修会(・課題別研修会・スポーツ交流会・懇親会) 【9月】授業研究会②(獅子ヶ谷小授業参観)／課題研究会② 【11月】小中交流日(学校説明&部活動紹介) 【1月】部活動体験 【2月】授業参観&情報交換会① 【3月】情報交換会②・課題研究会③

中期取組目標	○全教職員が学校経営に主体的に参加し、子ども一人ひとりが安心して豊かに学び育つ学校にします。
	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶ楽しさを実感できる授業づくりを推進し、主体的な態度を大切にしながら学力を向上させます。 一人ひとりが自己有用感をもち、「全員を仲間と認め、仲間を大切に、仲間と協力する」集団を作ります。 地域の豊かな自然環境を生かした教育活動の充実に努め、体験活動を通して、地域の「人」とのつながりを意識し、地域を愛する心を育てます。 家庭、地域、関係機関との連携を図り、社会に開かれた学校づくり・安全安心の学校づくりを進めます。

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①新学習指導要領をふまえた、本校における各教科・領域のカリキュラムづくりを行う。 社会科、体育科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動における学校の特色を生かした授業づくりをする。 情報教育の推進(情報モラル、情報活用能力の向上)をしていく。
担当 重点研推進委員会	②主体的・対話的で深い学びを旨とした授業改善を行う。
豊かな心	①「あいさつ」が獅子ヶ谷小の伝統であることを意識し進んであいさつする姿を評価し、みんなで温かい学校づくりを推進する。 ②道徳的価値が実現できない自分も受け入れてもらえる、聞いてもらえる安心感から、自分の思いを本音で話せるようになることで自己肯定感を高めていく。 ③行事に加え他の授業でも地域の方々とふれあい、活動の中で出会う人とのつながりや人々の温かさや優しさにふれあえる学習を展開する。
担当 人権・特別支援・児童指導	
健やかな体	①子どもが運動する楽しさや喜びを味わえるよう、各学年の単元の系統性を意識した学習を計画する。 ②運動委員会主導で、体を動かすことの楽しさを多くの児童に感じてもらえるように月に1回程度運動の楽しさやコツを伝える「スポ活」の日を設定する。 ③「早寝早起き朝ごはん」に関するアンケートを行い学校としての課題を発見し、学校全体として規則正しい生活を推進する。
担当 体育部	
児童指導・特別支援教育	①配慮を要する児童のアセスメントと具体的な支援を全職員で共有する機会を年間3回実施し、指導に生かすとともに、どの職員も同じ対応ができるようにする。 ②新しい形式となった個別的教育支援計画、本校独自の個別の指導計画を、通級指導教室で指導を受けている児童、特別支援教室で指導を受けている児童について、保護者とともに作成していく。
担当 人権・特別支援・児童指導	
望ましい集団活動	①子どもが他学級、他学年の教師と関わることができる機会である児童会活動、クラブ活動、学校行事においては、教師間の連携・協力を大切に。学級活動においては、活動によって養護教諭、栄養教諭、学校栄養職員、学校図書館司書などが学級担任とともに指導にあたる。 ②活動においては、子どもの自主性を重んじ、主体性を育てるようになる。
担当 特活	
自分づくり教育 キャリア教育	①地域の豊かな自然環境を生かした教育活動の充実に努め、体験学習を通して、地域の「人」とのつながりを意識し、指導にあたる。 ②「横浜の時間」を中心に地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で一人ひとりの自己有用感を高めるようにする。 ③学年に応じて、地域住民や企業がかかわる学習活動を年間計画に位置付け、学ぶことや働くことの意義を考えられる場を設定する。
担当 生活・総合部	
環境教育	①安全訓練を通して、児童が災害から自分の身は自分で守るという意識をもつことができるように指導にあたる。 ②毎月安全点検を行うことで、児童が安全な環境で活動に取り組むことができるようにする。 ③毎月のエコキャップ回収運動やごみの分別チェック、毎日の牛乳パックリサイクル活動などを通して、環境保全の意識を高める。
担当 環境・保健・安全	
地域連携・学校運営協議会	①家庭、地域、関係機関との連携を図り、外部の力の効果的・効率的な活用方法を検討し、より豊かな教育活動へとつなげる。(授業サポート、見守り隊、情報教育) ②「学校だより」のほか、「学校HP」の内容を充実させ、学校の情報発信に努める。 ③教育懇話会で各地域の代表者の方々や学校運営協議会の意義と役割について共有し、2020年度の協議会設置に向けた準備を行う。
担当 副校長	
いじめへの対応	①学年研ごとに、いじめ防止に向けての情報共有を行う。その情報を、児童指導部で共有し、専任が取りまとめ、対応にあたる。 ②毎月行われる「いじめ防止対策委員会」において、各学年の情報を、学校全体で共有し、対応にあたる。 ③「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を、専任が中心となり、学年や学級で積極的に活用する。 ④いじめ防止アンケートを数回行い、いじめの未然防止及び、早期発見、解決に役立てる。
担当 人権・特別支援・児童指導	
人材育成・組織運営 (働き方改革)	①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって年7回の活動を実施し、経験の浅い職員とミドルリーダーの育成を図る。 ②教務会、学年主任会を月1回定期的に開催し、共通理解を図ることで学校運営を組織的に行う。 ③グループウェアの活用を促進し、情報の共有化を図るとともに、事務の簡便化、効率化を図り、働き方改革につなげる。
担当 運営委員会・副校長	